

プロ1年生ヤクルト小川大金星 ⑦

恩返しのできる人間に

活躍支える父母の深い思い

■初登板初勝利

そしてついに大学三年の秋にはリーグ新記録となる防御率0・12を記録、3年秋以降は無傷の21連勝。

昨年の秋のドラフト。身体が小さくても頑張るヤクルトの

石川投手が目標だっただけに、意中の球団から2位指名。

今年4月3日、広島戦で初登板初勝利。くしくも弘子さんの誕生日。初勝利

のウイニングボールは母のもとに。その日、吉弘さんは息子の初勝利を見届けることなく、最終の新幹線で広島から豊橋に帰った。次

の朝の新聞の配達があるからだ。■母の思い

その日、吉弘さんは息子の初勝利を見届けることなく、最終の新幹線で広島から豊橋に帰った。次

弘子さんは試合の前には激励のメールを送る。「けがをしないように」

そして続ける。「しかし野球はいつまでも続けられない。現役を終えてからの人生のほろがきつと長いはず。人様に恩返しできる人間になっ

新人で単独最多勝の偉業

「勝利を祈っています」「チームメイトが守ってくださいるように」などの短文だ。返事は時々しかないというが「それでいい」。

「調子の悪いときや打たれているときは、とてもテレビでも、ましてや球場で見てもおれませんか」と弘子さんは言う。

■父の思い
「タルビッシュや

楽天の田中投手のように思われた体ではない。プロだから、この冬、泰弘の投球を全球団が分析するだろう。しかし泰弘もプロ。負けないだ

ろ。そう言うとき吉弘さんの目が光った。

そして続ける。「しかし野球はいつまでも続けられない。現役を終えてからの人生のほろがきつと長いはず。人様に恩返しできる人間になっ

秋の日に家族が住む平屋の古い家は輝いて見えた。雄大な太平洋の海に負けな

い。 (伊藤秀昭)



スポーツ新聞で息子の活躍を喜ぶ小川さん夫妻

(伊藤秀昭)